

精神医学Ⅱ

担当教員 肥後 成美

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

脳の構造と局在化している機能を勉強することで、個々の部位の総合作用として発露している我々の行動・思考の状態をより深く把握できる。それが精神障害の病像を適格に理解し、医療者としての治療、介護への正確な対応へと繋がると考える。

【授業の展開計画】

| 週 | 授 業 の 内 容 |
|----|---|
| 1 | 精神作用物質による精神および行動の障害（アルコール） |
| 2 | 精神作用物質による精神および行動の障害（モルヒネ、アンフェタミン等） |
| 3 | 統合失調症（概念、疫学） |
| 4 | 統合失調症（病因、病型） |
| 5 | 統合失調症（治療、鑑別診断、統合失調症近縁の疾患） |
| 6 | 気分障害（単極性気分障害） |
| 7 | 気分障害（双極性気分障害） |
| 8 | 神経症性障害（治療、病型：恐怖症性不安障害、強迫性障害） |
| 9 | 神経症性障害（病型：重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、神経衰弱など） |
| 10 | 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害） |
| 11 | 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（睡眠障害など） |
| 12 | 成人の人格および行動の障害（特定の人格障害） |
| 13 | 成人の人格および行動の障害（習慣および衝動の障害、性同一性障害など） |
| 14 | 高齢者と精神医学 |
| 15 | 精神保健と法律 |

【履修上の注意事項】

耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、毎授業後の復習や次回講義内容の予習が必要である。毎回の授業始めに、前回の内容についての質問を行うことで、理解度を確認している。

【評価方法】

期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

「精神医学テキスト」上島国利・立山萬里/編集、南江堂、「標準精神医学」野村総一郎他/編集、医学書院